

与那国島には「与那国島アヤミハビル館」という博物館があります。与那国島の内陸の山の麓にあって、案内表示があまりなく、場所がわかりにくかったのですが、何とかたどり着きました。「アヤミハビル」というのは、与那国の方言で「ヨナグニサン」のことです。

ヨナグニサン（与那国蚕）*Attacus atlas ryukyuensis*は、与那国島特産の蛾で、わが国では最大、世界でもヘラクレスサンに次いで2番目という巨大蛾です。種（しゅ）としての *Attacus atlas*（アッタクス アトゥラス）はインド、東南アジア、中国など広く分布していますが、亜種の *A.a.ryukyuensis*（リュウキュウエンシス）は与那国島とわずかに西表島、石垣島にしかいません。「アヤミハビル館」は、この蛾専門の博物館なのです。

残念ながら私が訪問した時期は生きた成虫の飼育はなく、標本だけ見せてもらえました。しかし標本とは言え、初めて見たヨナグニサンの巨大さと美しさに圧倒されました。ちょうどさなぎになるところという様子も見られました。大きな木の葉を自分で丸めて、その間に蛹室（ようしつ）を造り、さなぎになるのだそうです。

生きた幼虫も見せてもらえました。とにかく巨大で、こんなのが肩にのっかってきたら、たぶん気絶すると思います。脱皮をしたあとに、体が白い粉のようなもので覆われるのだそうです。その後「ヨナグニサンの一生」という映画も見せてもらい、大変勉強になりました。

